

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590500100		
法人名	特定非営利活動法人 NPOふくし永源寺		
事業所名	グループホームやすらぎの里けやき		
所在地	〒527-0231 滋賀県東近江市山上町5040		
自己評価作成日	令和3年 5月 8日	評価結果市町村受理日	令和3年 6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	令和3年6月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に恵まれホームのフロアや居室からは鈴鹿の山々、四季折々の景色、一日の景色の変化を望められる環境の中で生活されている。ホームの近くにあるやすらぎ農園で、野菜の収穫や良い天気の日には気分転換のため畑に出向きベンチに腰掛けゆったりとした時間を過ごしている。コロナの影響で外出や行事、面会ができないため畑での活動が良い刺激になっている。ホーム内では、日々の生活の中で食事作りのお手伝いや後片づけ、洗濯物の仕分け等、ひとり一人が自身の持てる個々の残存能力を生かし職員と関わりを持ちながら生き生きと生活されている。明るい表情が見られるように心のケアを重視した関わりに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園のなかに立地し、併設の事業所(グループホーム、デイサービス)と相互連携の下、利用者の状態に応じた支援を柔軟に提供している。コロナ禍の影響で、開催していた研修会「認知症利用者地域から考える」も開催できず、利用者の外出も制限されるなど事業所活動が限られるなか、年4回発行の広報誌「やすらぎの里」掲載で事業所活動の発信や認知症防止啓発に取り組んでいる。書面会議による運営推進会議での意見交換等を通じて地域との交流の基盤づくりや事業所サービス向上や運営改善に繋げている。事業所敷地内での散歩や畑に出向いての収穫作業が利用者の楽しみになっている。コロナ禍の影響で家族の来所面会ができないなか、書面や電話を通じた報告に家族から安心と信頼の声が届いている。居室には利用者の状態に応じてセンサーマットの設置など介護度の高まりに応じた体制づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に数ヶ所理念を示し、いつでも目に付くように努めて意識付け出来る環境にある。月2回の職員会議等でケア方針や理念について共有している。	理念に利用者のその人らしさを生かす支援をし地域の拠点となる事業所となることを掲げ、所内掲示し、ケアでの課題を職員会議等で話し合っている。家族には理念を契約書に明記し理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度から、コロナ禍により地域の活動やボランティア、老人会、小学校との交流が出来ない状況が続いている。毎年行っていた敬老祭も今年は中止になった。日赤奉仕団の方々には、外から清掃作業に携わって頂いている。広報誌などでは、活動内容を記載し配布している。	地域情報は運営推進会議で収集している。年4回発行の広報を通じて認知症防止啓発に取り組んでいる。小学校の総合学習の一環として職員の出前講座を開催予定である。開催していた研修会はコロナ禍の影響で開催できない状態が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講習会開催や地域のサロンに参加できない状況ではありますが、運営推進会議(書面会議)や広報紙を通して認知症について理解を深めて頂けるよう務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はやすらぎの里永源寺と隔月に開催している。5月は開催し7月からは書面会議で活動報告や近況報告をしている。委員の皆様からたくさんのご意見と感想を頂き、支援向上に結び付けている。職員に議事録を回覧、確認してもらい意識向上につなげている。	書面による運営推進会議を併設事業所「けやき」「永源寺」の合同で開催し、状況報告や運営に関するテーマを協議し運営改善に繋げている。議事録が事業所毎に判別しづらい記述となっている。	議事録を事業所別に明記し、運営に活かしやすい記述を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の行事や運営推進委員会に支所の担当者に参加していただき、日頃から困りごとや相談事があれば助言を頂いている。今年にはコロナ感染対策や高齢者ワクチン接種についての相談にも助言して頂き密に行っていた。	広報誌配布で事業所の取り組み状況を伝えている。市職員との連携を深める一助となっていた永源寺コミュニティセンターのサロン「えんがわ喫茶」や市町村のケア対象の事例検討会はコロナ禍で休止中となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催しており、センサーマットの使用状況、目的、日中の施錠状況等を明確にし職員会議等で報告している。また、外部研修に参加し、職員会議でマニュアルなど用いたり、事例をあげ会議でグループワーク形式で勉強会をしている。	身体拘束が利用者には及ぼす影響等の研修を職員が受講し、職員会議で話し合い、日々のケアに活かしている。玄関は日中は施錠せず、利用者外出時には職員が付き添い同行している。万一徘徊などの場合の地域の協力を得られるよう、事業所に配布用の写真付き書面を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで問題点を職員会議で話し合い、気付いた事をあげ防止に努めている。経営者は虐待防止関連についての意識が高く現場にその考えが浸透している。職員が学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権や権利擁護に関する研修を職員会議で行い意見交換を行っている。分らない時は、市職員に相談し活用できるよう努めている。制度利用の利用者がおられ成年後見制度の理解、意識を職員が持ち勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重度化のリスクや対応、退去理由についても説明を行い、了承を得ている。また、状態の変化により契約解除に至る場合もその後の対応を含め、家族様と相談の場を設け納得、了承を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、面会規制が続いており、書面や電話を通じ普段から意見の出し易い環境作りに努め家族の要望、意見交換や思いをくみ取るようにしている。職員全員で共有している。運営推進会議等の機会に報告を行っている。	コロナ禍の前は家族会は年2回開催し、家族の来所頻度は平均月1回であった。家族の面会時や家族会、所内行事参加時等に家族から意見や要望をくみ取り、職員会議で取り上げ運営改善につなげていたが、コロナ禍のなか、電話や書面での意見交換を事業所運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議で運営に関する報告を行ったり、業務内容の改善についての意見交換の機会を設けている。日頃から、話しやすい雰囲気や努め、小さなことでも取り上げ反映するよう努めている。又職員の会話から意見を聞くようにし反映させている。	会議開催前に職員の意見を聴取し、職員会議で取り上げ、食事量、ヒヤリハットなど日々のケアでの事案を話し合っている。議事内容は議事録とは別に申し送りノートで職員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を常に把握するように心掛け働き易い環境に努めている。常に意見が反映するよう心掛けている。適材適所でやりがいを持って頂けるように、個々に業務を担当して配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で研修参加の機会を設けている。各職員にあった資格が修得出来るように支援を行っている。新職員に関しては、一定期間の勉強会実施し、ケアについて丁寧な指導に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や事例検討研修会に参加し他事業所の取り組みや報告を取り入れ、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の生活歴や、今後の不安要素をしっかりと聞き取り、ご本人の意思を尊重するよう努めている。本人に関する情報を共有し、尊重しながら雰囲気慣れ安心して暮らせるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面接の相談時、家族の不安や困りごとと苦労を聞き取り、ご家族のニーズを理解し、事業所では、どのような事に対応できるのかを話し合いながら、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を確認し何を必要とされているか見学に来られた時や、契約、面接時にお話を伺い、本人の困りごとなど把握し家族の思いも理解するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動や感動を共有することで、思いを理解するよう努めている。人生の先輩として接し知識を教えてもらっている。日常の家事作業を利用者と職員共同で行い、お互いに助け合い暮らしを共にする関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へまめに連絡、相談し本人・家族の意向を大切にしている。認定調査や特別な受診には家族に立ち会っていただくなど、協力を得ている。普段の様子が分かるように1ヶ月の様子や活動の様子が分かるよう写真を送っている。お互いに助け合い暮らしを共に支える関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナ感染の終息がみられない為、面会、人込みへ外出、家族とのお出かけは禁止させて頂いている。 利用者様が語る馴染みの人や地元の話、ご家族の話など傾聴し、日々の会話のなかで思い出して頂けるような話題作りに努めている。	入居時の家族からの聞き取りやフェイスシートで入所前の利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。利用者は知人、兄弟等との文通や電話でコロナ禍での関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の身体状況に合わせ出来ることをして頂きながら、職員が会話や橋渡しをし利用者同士と一緒に協力できる関係作りに努めている。利用者様同士挨拶される場面や協力されたり助け合うとされる姿も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も行事等に参加して頂くよう声掛けさせて頂いている。場合によっては、フォローや相談などの支援を行っており、他の施設へ移られる場合には、本人状況や支援情報を詳しく伝えてご本人がスムーズに入所できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで、本人の発する言葉や行動、態度をケース記録、日誌等に記載し、職員同士が内容を把握している。また家族からの情報や意見も参考にし、思いや希望をくみ取り利用者本位のケアに努めている。	利用者との日々の関わりや業務記録から、利用者の思いや希望を把握するように努めている。現在、意向表出困難者はいない。入浴時や就寝前に聞き取った利用者の思いはケース記録で職員に周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からこれまでの暮らしぶりや、生活歴、趣味など過去の情報を収集し、本人の理解に努めている。これまでのサービス利用の経過や情報も関係者から聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りケアを重視し、個々の動静や言動、気分変化を観察し、心身の状態や能力の把握に努めている。これらの情報を各記録に記載し、職員会議で共有する事で、ケアに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活歴や、本人やご家族から、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き作成するように努めている。状態変化や日々のケアの中での気づきなど職員会議等で、意見交換し、モニタリングを行いプランに反映しています。統一したケアが行えるようサービス計画を作成していますケアプランは、変化があった場合は都度変更し、家族の承認を得ています。	介護計画は入所時の利用者、家族とのアセスメントを参考に職員が話し合い計画作成担当者が作成し家族の承認を得ている。利用者の状況変化があればその都度計画見直している。介護計画は家族にも郵送し、確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のエピソード、言動や身体の状態、一日の活動や変化があれば、ケース記録や介護記録等個別に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて、受診や理髪サービス、外出(花見、桜、菜の花、牡丹など)職員間で話し合い柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部との接触ができない状況が続いていますが、獅子舞や市の主催の花火を鑑賞して頂き楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、受診経過や今後の通院に関して家族と話し合い希望の医療機関へ通院して頂いている。定期健診以外にも必要に応じて随時受診を行っている。ご家族が付き添われる場合連携シートに記載し医師に様子をお伝えしている。	受診に際しては利用者全員が家族または職員の同行支援を受けている。家族同行の場合、日頃の状況やバイタルデータを家族に伝え、受診結果は職員が聞き取り健康管理に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらっている。普段から利用者の体調や様子の変化に気づけるように、見守りケアに取り組んでいる。異変があれば、直ちに協力医に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院目的を早く達成してもらえるように、協力医や家族と話し合い連携している。サマリー等を医療機関に提供している。入院期間中は、地域連携室相談員や担当看護師、家族と回復状況等情報交換し、早い退院に繋げるようにへの支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所での介護方針や目的、体制など契約書に記載されている内容をわかりやすく説明し、重度化や終末期は、相応の施設や病院への連携を行うことを理解、納得して頂いている。入所後も体調変化に合わせてご家族や関係者と話し合いを行っている。	重度化や終末期ケアの事業所方針を重要事項説明書に明記し、契約時に利用者と家族に説明し了解を得ている。家族との話し合いの結果は文書で残し家族の承認印を得ている。現在は看取り介護対応はしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練を行い、心肺蘇生、骨折、止血、喉詰まりの対処方法を学んでいる。協力医には、夜間を問わず連絡を取れるようにしている。緊急時対応マニュアルがスタッフルームの目に付く所に貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全室にスプリンクラーを設置し、年1回消火設備点検、立ち入り調査がある。年2回の消防避難訓練の実施、避難経路の確認、水消火器を使用し使い方などの訓練を行っている。防災、減災マニュアルを作成している。	消防署指導の下、併設事業所と合同で年2回の避難・消防訓練を行い、内1回は夜間想定訓練を実施している。訓練は地域住民の参加協力がある。自衛消防隊組織図はあるが緊急連絡網は表示されていない。	地域と連携した緊急連絡網の完備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のノック、トイレ時のドアの開閉時に声かけを徹底している。表情や行動などから、気持ちを汲み取りさりげない誘導や対応を心掛けている。対応の前には、利用者様の意思確認をし誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。	職員は個人情報保護やプライバシー確保のための研修を受講し、職員会議でも取り上げ理解を深めている。職員は利用者が不安がない丁寧な言葉遣いや態度を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表しやすい雰囲気作りや、関わり方を心がけている、日課等は複数の選択肢から選んで頂いている。作業等は、希望を伺い提供するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日など一応の決まりはあるが、一日の流れの中で、個々の能力にや体調・ペースに合わせ暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶときは、毎回同じ服にならないように一緒に選んだりすることを心掛けている。また衣替えの季節には家族に来てもらい季節に合った衣類を用意していただいている。定期的に地域の理髪店を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫から食事後の後片付けまで利用者と一緒にしている。畑で一緒に収穫した旬の食材を使ったり、行事には、特別感のあるメニューを考え利用者と用意している。また利用者と一緒に食事をし食への関わりを楽しみにして頂くよう支援している。	調理は3食とも事業所内で行い、食材は事業所内畑で収穫する野菜も取り入れている。利用者の誕生日、ひな祭り、節分などには特別メニューを楽しんでいる。利用者の体調に合わせて刻み食やおかゆ等も取り入れている。利用者の好き嫌いを把握し献立に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に栄養バランスを見てもらっている。持病がある場合には、水分量や体重の増減、食事料などチェックし、主治医や管理栄養士の指示を仰ぎながら個別に食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、就寝時前に、自分で出来る方は、声かけ見守りで、うがいや義歯洗浄を行っている。出来ない方には、気持ちに配慮しながら、歯磨きの手伝いをしたり、義歯洗浄を行っている。毎週月・木曜日には義歯洗浄剤を使用し清潔に保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録をとり、排泄パターンの把握に努めている。行動や表情のサインを見逃さず、さりげない声掛け誘導を行いトイレで排泄出来るよう状態に応じた介助を行っている。その際には、プライバシーや羞恥心には配慮するよう心がけています。尿量や排便の有無など職員間で申し送りを行っています。	排泄チェック表や利用者の表情、行動から判断し適時なトイレ誘導を心掛けている。利用者のうち1名が要介助者で、ほとんどの利用者が自立排泄可能者である。利用者のうち布パンツ使用者が2名、リハビリパンツ使用者が7名である。夜間対応のセンサーマットは2名の利用者に設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑仕事や散歩、体操などを行い、食事には乳製品や食物繊維を取り入れるようにして便秘対策に取り組んでいる。水分摂取の大切さを職員と利用者ともに認識をして、お茶を活動の合間に飲んでもらっている。又便秘気味の方は、主治医に相談し便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本としている。順番や入浴時間は、本人の状態や希望に沿うように配慮するなどしている。また柚子、牡丹などを使い季節感を楽しめる入浴を行っている。入浴の拒否のある方は、声掛けの工夫を行っている。	週3～4回の入浴を基本としている。浴室の床は滑りにくく温かい材質である。事業所内で咲いている花を浴槽に入れるなど利用者の入浴習慣や希望を取り入れながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、夕方は穏やかに過ごせる生活リズムを保ち安眠に繋がるように心掛けている。冷暖房を用いて室温調整に努めている。夜間頻尿や寝つきの悪い方は家族や医師と相談し、薬剤の調整をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬情は、すぐに閲覧できる場所に保管し各利用者別に小分けBOXで保管している。セット時は、2重、3重のチェックを行っている。服薬時は、利用者に手渡し、確実に服薬出来るよう見守っている。処方の変更があった場合は、受診記録を確認し職員全体で経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、野菜の収穫、花いじり、裁縫、調理、掃除機掛け、家事全般を日常生活に取り込んで、充実感と役割による張り合いや喜びを感じて頂けるよう努めている。畑仕事や野菜の収穫は気分転換にもなる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、外出は控えさせていただいている。畑やお花見、ドライブなどで気分転換をおこなっている。	コロナ禍により、事業所敷地内での散歩や事業所所有の畑に出向いての収穫作業が利用者の楽しみになっている。歩行困難な2名の利用者にもできるだけ外出できるよう車椅子支援で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームに現金を持ち込みを遠慮して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、知人からの便りに対して返事を書いていただけるよう支援している。利用者の要望によっては、家族の了解を得て電話もかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく開放的かつ採光も良い為、カーテンを開放し自然の光や景色から時間や季節を体感していただいている。冷暖房や加湿器を用いて湿度、温度を調整している。食堂では、音楽を聴きながら過ごして頂いている。朝と16時(換気時)掃除機掛け、拭き掃除及び消毒を徹底している。夜勤者が食堂のイスなど消毒を行っている。	共用生活空間(玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレ)は居心地よく過ごせるよう配慮し、採光良く開放感がある。居間の通路には利用者が楽しめるよう沢山のスナック写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や日当たりのよい廊下にイスが置いてあり、景観を眺めながら、数人の会話の場となっている。暖かい日には日光浴を楽しまれている。思い思いに過ごせる環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や備品を持ち込み思い出の家族の写真を飾るなどしている。思い出の品について傾聴するなどして居室でくつろいで頂ける工夫をしている。利用者と職員が協力し清潔を心掛け居心地よく過ごせるように務めている。	ゆったりと開放感のある居室で、掃除が行き届き清潔で空調完備している。利用者は馴染みの家具や好みの壁飾りなどで自宅に近い雰囲気の中で落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの案内や居室の名前を見やすい位置に表示している。利用者が日常的に使う物は混乱しないように所定の場所に表示して置いている。自立した生活が安全に送って頂けるよう工夫している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域と連携した緊急連絡網の完備を期待したい。	地域と連携した緊急連絡網の作成をする。	緊急連絡網が地域と連携したものになるよう、委員会等で検討していく。	12ヶ月
2	4	議事録を事業所別に明記し、運営に活かしやすい記述を期待したい。	どの事業所の意見かが分かりやすい議事録の作成。	議事録の書き方を、どの事業所の意見なのかがすぐに分かるよう、工夫していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。